

## 紙風船を天皇皇后両陛下もご存知だった 43年の議員生活を終える、稗苗清吉富山県議員 紙風船を手土産に全国各地で富山の置き薬の広報活動を担う (一社)日本置き薬協会

2017年(平成29年)5月、天皇皇后両陛下(現在は上皇皇后両陛下)もご出席されて富山県魚津市を主会場に第68回全国植樹祭が開催された際、当時県議会議長だった稗苗清吉(ひえなえせいきち)富山県議が両陛下に三日間随行した最後の昼食の席でのこと。稗苗議長が両陛下お相手に「富山の置き薬」を話題に供したところ、美智子上皇后陛下が「あっ、あの紙風船の!？」とお言葉なされた。



「そして私の話をきっかけに、石川県知事(当時)、森富山市長(当時)も先用後利の商法など、富山の置き薬について両陛下に説明されたのだが、日本国の天皇皇后両陛下が、富山の置き薬をご存知とは思ってもいなかったので、美智子皇后様が、あっ、あの紙風船の!？」とお言葉されたとき、とても感動しました。そのお言葉を今もはっきり覚えています」(中略)

その稗苗県議(79)も今期をもって昭和55年からの魚津市議、平成11年からの富山県議という、43年間に及ぶ議員生活から退く。稗苗県議は知る人ぞ知る、紙風船を持参しての「私的な富山の置き薬大使」だった。公務等で全国各地に出かけたときに発言機会があったときには必ず、とやまと富山の置き薬をピーアールしてきた。公務外でも実践倫理宏正会の朝起き会へも。(中略)稗苗氏は、魚津市議時代から研修や視察で県外へ出張した際には、手土産に紙風船を持参し、北は北海道から南は沖縄まで、その

土地の最寄りの朝起き会に出席させてもらい、三分間スピーチで「富山の置き薬」を必ずピーアールしてきた。

飛び入りで稗苗議員が全国の会場でとやまの置き薬の話をし出すと、どの会場でも朝早く眠たような顔をしていた人達が目を輝かせ、「私の家にも置き薬がありました」「富山の薬屋さんが訪ねて来てました」「二年前に富山のチュウリップフェアに行ってきた」「私の姉は富山に嫁いでいます」などと、会場はとても盛り上がったという。(中略)

配置薬業界などでは近年危機感が叫ばれていても、県議会や行政の場では配置薬の振興などについてはほとんど話題にのぼらなくなった。「まだまだ力になれることがあったのではと思われる」という。でも議会を去っても機会あるごとに「くすりの富山」と「富山」の魅力をこれからも発信していく、と語った。(以上、「薬日新聞第4147号 2023年4月17日刊」より転載)

### 紙風船について

#### 1. 「富山売薬の歴史 薬日新聞社刊」の「売薬さんと紙風船」より転載)

他県の人達と富山の売薬さんの話をすると、子供の頃に売薬さんから貰った紙風船で遊んだ、という思い出話が必ずと言って良い程語られます。紙風船が売薬さんのお土産に使われ始めたのは、明治時代になってからのようです。明治23年、イギリス人スパンサーが皇居前広場で上げた気球を真似て作られたのが始めだと言われています。売薬さんはお得意先の子供を大切にしました。柳行李を開けると、まず紙風船を子供達に与えましたから、子供達には大変な人気で、売薬さんを見掛けた子供達が、そのあとをぞろぞろ付いて行く光景が大正、昭和に掛けて、日本のあちこちで見られました。それは、日本人の郷愁をそそる、代表的な風物詩の一つでした。

2. 北多摩薬剤師会ホームページの「おくすり博物館」の「置き薬・くすり屋のおまけ・景品シリーズ」3と19に紙風船資料が多数掲載されています。

3. 富山市の医薬品卸商・有限会社伸興商会のご厚意で、記者会関係者に紙風船を配布しました。

4. 所謂ノベルティ品ではあるが、作業の妨げになりがちな子供の関心を逸らすため、また配置箱(薬)に子供を親しませ、次の跡取りへ継がせる意図もあったと思われる。

紙風船 この子らは 明日の得意と 空へ揚げ